第1回　MCR 学級 「子育て」に関する講座

1　目的

・子どもが思春期を迎える準備等について理解することで、自らの子育てや家庭教育力の向上のための良い機会とする。

・MCR 学級生の学びの場を広げる一助とする。

2　日時・会場　・参加人数

6月24日（火）10：00～12：00 松戸市民会館　301会議室

参加人数49名（MCR 学級生、小学校家庭教育学級生）

3　内容

（1）　開会　主催者挨拶　　社会教育課　関根課長

（2）　講演会

演題　「子どものほめ方☆思春期をむかえる前の親としての準備」

～子どもの気持ちを理解し、親の思いが届く効果的なコミュニケーション～

講師：親業訓練協会シニアインストラクター　式場　敬子　氏

（3）　質疑応答　11：40～11：50

（4）　閉会

4　概要

千葉県教育庁「生涯学習審議会」「社会教育委員連絡協議会副会長」「みんなで取り組む千葉教育会議」委員を務め、保護者のみならず、家庭教育担当者など行政に携わっている方々にも県内各地で講演を行っている、式場敬子氏を講師としてお迎えし、第1回目の MCR 学級がスタートしました。

ミニ体験学習としてまず、子どもの立場になり、「あ～あ！勉強全然やる気しないよ…」というセリフに対し、命令・脅迫・説教などの「おきまりの12の型」で対応された時の気持ちを体験しました。

続いて、『効果的なコミュニケーション』として、親が「この子は嫌な気持ちでいるんだな」と、子どもの行動を受け入れられるときの聞き方ができるときは、「白いボールを投げられたら、白いまま戻す」こと、相手の言っていることを理解しようと努力することが大事なこと。また、子どもの行動をイヤだと思う時の伝え方としては、「わたしメッセージ」が効果的というお話がありました。

最後に、コミュニケーションは「二方通行」であることを改めてお話しいただきました。講演の中では、二人組や、少人数での話し合いなどを行う時間もあり、あっという間に時間が過ぎる講演会となりました。

5　参加者の主な感想

・先生ご自身の体験がまさに今の私に当てはまり、わかりやすく楽しい時間でした。

・相手を動かすことばかりのコミュニケーションになっていたと思いました。私がどうしてこう言っているのか、一言添える声掛けをしたいと思いました。

・コミュニケーションをとるのに”子どもだから”のような視点ではなく、大人同士のコミュニケーションの取り方と同様なのだと感じました。お話の中で「確かに自分も他人からそういわれるといやだな・・・」と思う場面がたくさんありました。一人の人間として子どもに接していきたいと思いました。

・ほめて育てたいと思っていましたが、そこに評価があってはいけないという言葉にハッとさせられました。息子がほめてほしい時、そうではない時、気持ちによりそいながら伝えていこうと思いました。